

リーダーと若い力が築く伸び盛りのミニトマト産地
～部会員が一丸となり、3億円の産地を確立～

JAおいしいものがみミニトマト部会 部会長 柿崎久好
(新庄市、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村)

1 受賞者の概要

大蔵村農協（当時）のミニトマト部会（昭和60年設立）を前身とした、1市1町3村の生産者で組織する部会である。共同選果施設を拠点に、リーダー的な生産者（生産者リーダー）の高い栽培技術と部会員への共有化、高品質・省力化の取組み等により、県内第2位の産地に成長し、部会員はミニトマトを柱とした複合経営を確立している。

2 特色ある活動

(1) 組織をけん引する優れた生産者リーダー

部会長、副部会長の他、生産者リーダーが先頭に立って、講習会・圃場巡回・目揃い会・先進地研修等を開催し、部会員にきめ細かい指導を行っている。

また、農業技術普及課と連携し、生産者リーダーの栽培技術を画像や数値で「見える化」し、栽培技術の平準化を図っている。



部会長のハウスでの現地研修

(2) 品質向上・省力化の取組み

品種の統一、マルハナバチによる着果管理、土壌分析等を実施し、高品質安定生産と作業の効率化を図っている。また、多収量の上位者を毎年表彰しており、受賞者の取組みを部会員にフィードバックしている。

(3) 共同選果施設の整備と地域雇用の創出

共同選果施設で選果・パック詰めを行うことで、朝夕の出荷調整作業の負担が軽減され、きめ細かい栽培管理と規模拡大を可能にしている。また、パート従業員の雇用や農福連携により地域雇用の創出に貢献している。



共同選果施設

(4) ミニトマトを柱とした複合経営の確立

部会員は、ミニトマトを柱に、水稻や山菜、きのこを組み合わせた複合経営を確立している。

(5) 若手生産者の育成

新規栽培者は生産者リーダーの下で1年間研修する等、部会による手厚いサポートによって、早くから経営を軌道に乗せており、若手や女性等の新規栽培者の確保に繋げている。

(6) 規格外品の活用

規格外品は地元食品会社でケチャップなどに加工されており、ふるさと納税の返礼品にも使われている。

3 今後の発展方向

生産者リーダーの手厚いサポート体制を継続し、新規栽培者の確保・育成を図るとともに、リタイアする部会員の農地・ハウス活用の仕組みを構築する。

また、生産量増加や単価向上を図り、県内トップのミニトマト産地を目指す。